

中国輸出規制後のタンゲステン市場

中間原料の
APT価格

最高水準600^{ポンド}台で高止まり

荷動きへの懸念は限定的

中国が超硬工具などで使用するタンゲステン関連品目への輸出規制を2月に実施したが、国内流通市場における荷動きへの懸念は限定的となってきた。一方、中間原料のパラタングステン酸アンモニウム（APT）価格は600^{ポンド}（W_O3・10^{キログラム}当たり）以上と過去最高水準で高止まりしている。9月にかけて相場が高騰し、規制前からは約2倍となっている。

目は規制後も中国からは、値上がりが続く中、輸出されていたものの、荷動きはこれまでの不安定だった。市中では、規制に対する様子見と価格の値上がりが見られる。主に夏にかけて

ることで国内市場の荷は動いている。超硬工具の加工過程などで発生するタンゲステンスクラップも高騰している。APTが過去最高水準で推移している上、再生原料への需要増加に伴う集荷競争によって市中相場が押し上げられ、規制前の2倍近くまで上がっている。

中国によるタンゲステン関連品目への輸出規制が契機となり、スクラップは中国域外で手に入る原料として世界的に需要が増加。発生源が希望額を提示するようになった。

10月下旬のAPT価格は650^{ポンド}弱。年初は320～330^{ポンド}を中心に推移していたが、規制後に供給懸念からジリ高の展開となった。急伸したのは9月で、1カ月で100^{ポンド}ほど水準を上げて節目の600^{ポンド}に到達。8月に中国国内価格の上伸を受けて国際価格も引き上げられた。価格動向について、レアメタル専門商社アドバンストマテリアル

ジャパン（東京都千代田区）の瀧石雄介氏は「中国内の軍事関連やエネルギー関連需要の増加、異常気象による生産への影響などが押し上げ材料になったとみられる」と見解を述べた。その上で「市場は高騰後の価格を受け入れている。引き下げ材料も乏しいと捉えており、しばらく高値圏が続くのではないか」と見通した。

タンゲステン関連品

